

博士課程

2020

授業科目〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究科

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉」は、令和2年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究Ⅰ	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究Ⅱ	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90253	比較民俗学研究A	2	前期	1・2	講義	22
90254	比較民俗学研究B	2	後期	1・2	講義	24
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	26
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	27
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	28
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	29
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	30
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	31
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	32
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	33
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	34
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	35
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	36

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90245	東洋芸術批評史研究B (偶数年度開講)	2単位 前期 (集中)	1・2	講義	後小路 雅弘 (非)

■テーマ 東南アジア近代美術史—「美術」の誕生から今日の表現まで

■授業の概要

東南アジアにおける「美術」制度の誕生と今日に至る展開について、基本的な問題を理解するとともに、主要な作品と作家について学ぶ。

■到達目標

- ・東南アジアを中心にアジアの近代美術史における基本的な問題を理解し、主要な作家と作品について説明できるようになること。
- ・東南アジアを中心にアジアの今日の美術の基本的な問題を理解し、主要な作家と作品について説明できるようになること。
- ・日本と東南アジアとの関係を理解し、それがどのように美術の発展と関わったかについて論理的に記述できるようになること。

■授業計画・方法

1. 「アジア」をめぐる基本的な問題
2. アジアの「美術」をめぐる基本的な問題
3. フィリピンにおける「美術」の誕生
4. インドネシアにおける「美術」の誕生
5. シンガポール・マレーシアにおける「美術」の誕生
6. タイにおける「美術」の誕生
7. ベトナムにおける「美術」の誕生
8. 日本の戦争とアジアの美術 1
9. 日本の戦争とアジアの美術 2
10. 独立前後の東南アジアの美術
11. 東南アジアにおける抽象表現とポスト抽象
12. 東南アジアの現代美術 1980年～2000年の作家と作品
13. 東南アジアの現代美術 2000年以降の作家と作品
14. 東南アジア近現代美術史をめぐる状況の変化
15. 日本はどのようにアジアの美術を紹介してきたのか

※定期試験は実施しない。(レポートを課す)

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・「アジア」に対する自らの先入観をできる限り払拭して授業に臨むこと。
- ・参考文献にひととおり目を通して授業に臨むこと。
- ・授業の中から、自分なりの関心のあるテーマについて考え、授業の後、自分なりに調べること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 授業への積極的な参加/発言など平素の授業の成績 (50%) にレポート (50%) の成績を加え、総合的に判断する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
芸術文化学研究所 (博士課程) の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 なし

□テキスト その都度配布する

□参考文献

『東南アジア—近代美術の誕生』(展覧会図録) 福岡市美術館 1997年

『アジアの美術—福岡アジア美術館のコレクションとその活動』美術出版社 2002年 (改訂増補版)

『アジアコレクション100』福岡市文化芸術振興財団 2016年

『アジアをつなぐ—境界を生きる女たち 1984-2012』(展覧会図録) 沖縄県立美術館ほか 2012年

『サンシャワー:東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで』(展覧会図録) 国立新美術館/森美術館 2017年